

株式会社 エーワン精密

平成28年6月期決算説明会

平成28年6月期 決算説明会資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
当社の事業展開	1
事業内容・特色	2
自動旋盤用カム部門	3
コレットチャック部門	4
切削工具部門	5
(2) 決算について	
決算の概要	6
損益の状況	7
財務の状況	8
キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
自動旋盤用カム部門	10
コレットチャック部門	11
切削工具部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用されるカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

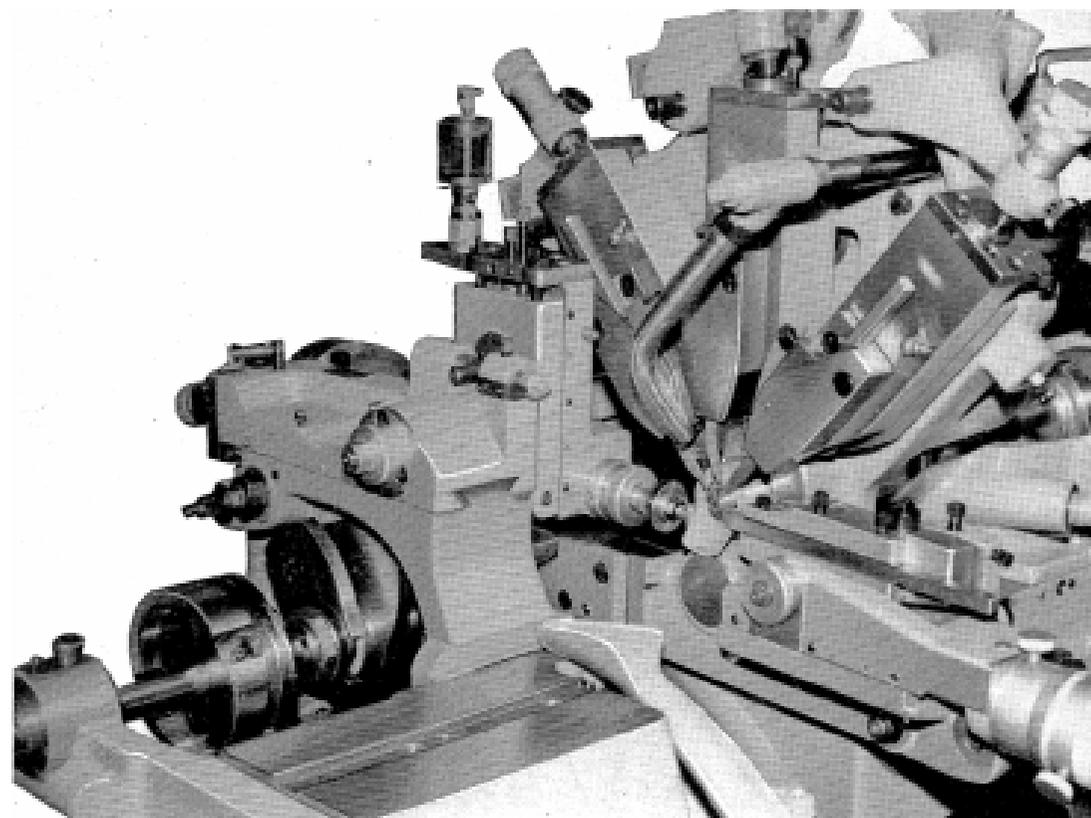
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS - P1053)



カム取付後写真



コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

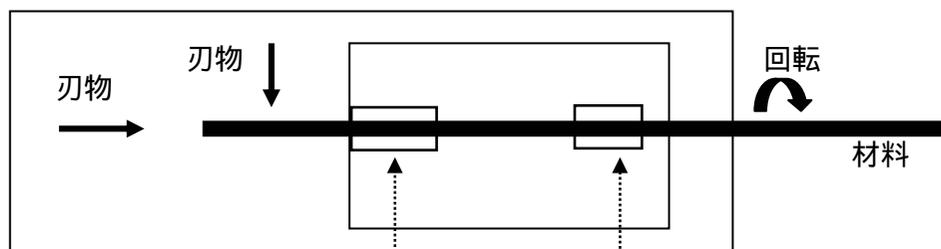
NC旋盤 3,019億円(2015年生産額) 19,062台
うち 小型CNC自動旋盤約 1,760億円(2015年推定生産額)

主な小型CNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 903億円(2015年生産額) 4,201台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	2,194億円(2015年生産額)	57,976台
NCフライス、中ぐり盤	216億円(2015年生産額)	985台

使用される工具

超硬エンドミル	470億円(2015年生産額)
超硬ドリル	342億円(2015年生産額)
その他超硬工具	409億円(2015年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

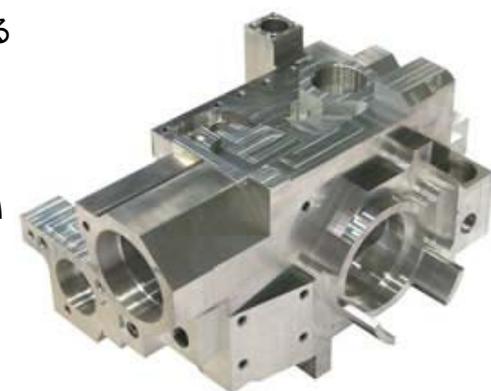
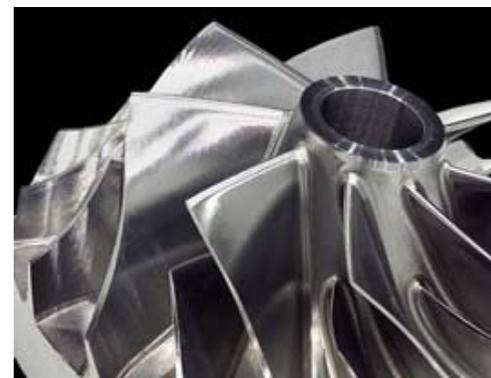
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



平成 28年 6 月期 決算概要

売上	このところ好調を維持していた電子分野などの高付加価値部品、様々な分野で使用される高機能材料などが堅調な動きをしたが、世界景気の鈍化に伴い頭打ちからやや減少に転じた。ここ数年増加していた国内設備投資も一巡して横ばいとなった。通期で受注は前年並みに終わった。
原価	減価償却費の減少により、固定費が低減した。
利益	付加価値の高い別注工具が堅調だったことと固定費減少で利益率改善した。

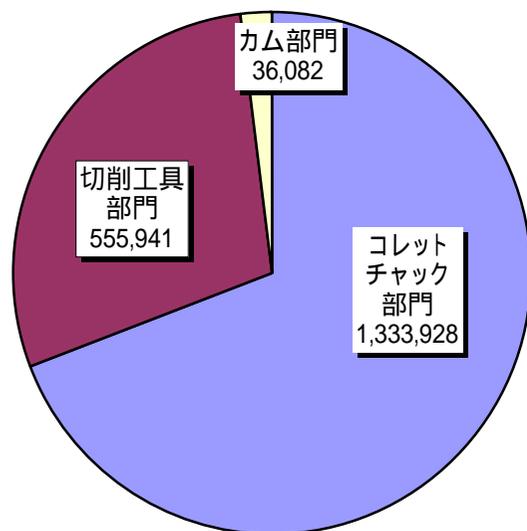
人件費

	(千円)	
	25期	26期
労 務 費	742,033	764,026
コストに占める比率	52.3%	54.6%

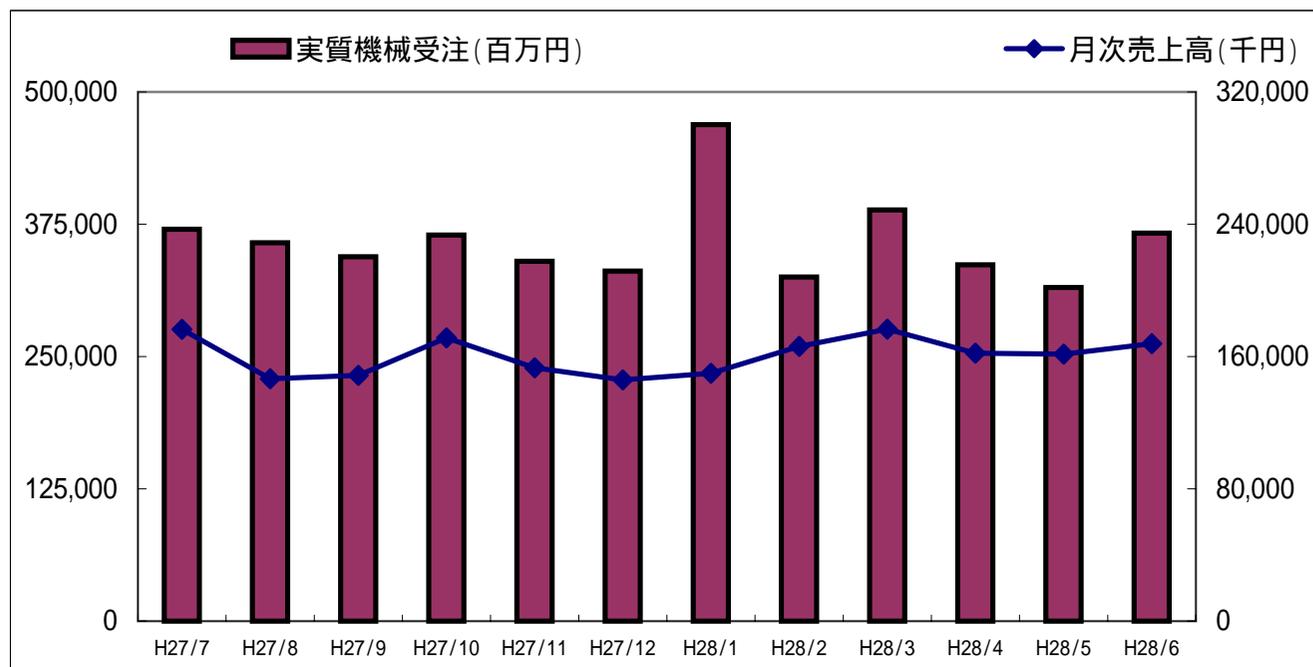
設備投資額と減価償却費

	(千円)		
	24期	25期	26期
設備投資額	140,894	107,982	98,321
減価償却費	239,231	212,072	195,071

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成 28年 6 月期 損益の状況

(単位：千円)

	平成 27 年 6 月期			平成 28 年 6 月期			増 減 要 因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	1,321,739	68.8%	105.9%	1,333,928	69.3%	100.9%	コレットチャック部門は国内外の複雑な加工が堅調だったこと、補助金等の効果で国内設備も一定水準あったことなどにより微増となった。
切削工具	556,945	29.0%	105.0%	555,941	28.9%	99.8%	切削工具部門は標準品の再研磨が競争激化により減少傾向となり、オーダー品製作が少しずつ伸長しトータルすると微減となった。
自動旋盤用カム	41,653	2.2%	94.8%	36,082	1.8%	86.6%	自動旋盤用カム部門は、カム式自動旋盤での量産品加工が減少し受注も減少した。
合 計	1,920,338	100.0%	105.3%	1,925,952	100.0%	100.3%	
売上原価	1,119,285	58.3%	101.5%	1,101,181	57.2%	98.4%	利益率改善により変動費部分の人件費は増加したが減価償却費などの固定費部分が減少し、全体として減少した。
売上総利益	801,052	41.7%	111.1%	824,770	42.8%	103.0%	
販売費及び一般管理費	299,928	15.6%	106.2%	297,903	15.5%	99.3%	
営業利益	501,124	26.1%	114.3%	526,866	27.3%	105.1%	
経常利益	503,488	26.2%	108.9%	544,808	28.3%	108.2%	
当期純利益	447,101	23.3%	140.2%	561,834	29.2%	125.7%	有価証券売却益を計上したことにより増益となった。

平成 28年 6 月期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	平成27年6月期		平成28年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	3,411,833	43.0%	4,792,257	59.4%	有価証券売却益と当期純利益計上により増加
売上債権	433,102	5.5%	437,397	5.4%	
棚卸資産	192,786	2.4%	185,964	2.3%	
その他流動資産	523,373	6.6%	24,932	0.3%	有価証券の償還により減少
固定資産	3,373,383	42.5%	2,630,688	32.6%	投資有価証券売却により減少
資 産 合 計	7,934,479	100.0%	8,071,240	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	14,715	0.2%	16,012	0.2%	
その他流動負債	279,191	3.5%	291,406	3.6%	未払法人税等が増加
固定負債	481,005	6.1%	424,958	5.3%	繰延税金負債が減少
負 債 合 計	774,912	9.8%	732,377	9.1%	
純資産合計	7,159,567	90.2%	7,338,862	90.9%	
負債・純資産合計	7,934,479	100.0%	8,071,240	100.0%	

平成 28年 6 月期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	平成27年6月期	平成28年6月期	対前年比増減額	増 減 要 因
営業活動によるキャッシュ・フロー	571,147	471,938	99,208	主な増加要因：税引前当期純利益 838,644千円 主な減少要因：投資有価証券売却益 293,846千円 法人税等の支払額 251,270千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	217,871	132,115	349,986	主な減少要因：定期預金の純増加額 1,149,081千円 有形固定資産の取得による支出 98,321千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	969,625	108,481	861,144	配当金の支払額：108,227千円
現金及び現金同等物の増減額	180,606	231,342	411,949	
現金及び現金同等物の期末残高	227,820	459,163	231,341	

今後の事業展開 ~ 自動旋盤用カム部門

事業展開

カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
将来的には減少傾向

競合状況

3千5百万円弱の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

既存の償却済設備と現状の人員で対応
低コスト製造を徹底

今後の事業展開 ~ コレットチャック部門



小型CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 25 ~ 30億円

メーカー 4社程度

その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

<今後の方向性>

小型精密部品分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向
大量生産品と多品種小中ロット品に二極化している

<国内の状況>

CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
国内で推定 12 ~ 13万台の機械が稼働している
加工ノウハウ、使用工具の工夫で日本企業の競争力は高い

<当社の対応>

加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充
専用機用コレットチャック対応力を高める

今後の事業展開 ~ 切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		×	内製、グループ会社 切削工具メーカー
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入		再研磨会社 150社程 全国規模 4~5社 地域型、個人経営 工具商社系
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型 小中ロット加工	市販切削工具 市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 再研磨外注 外部購入		特注切削工具 大手メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社

< 市販切削工具の例 > 再研磨

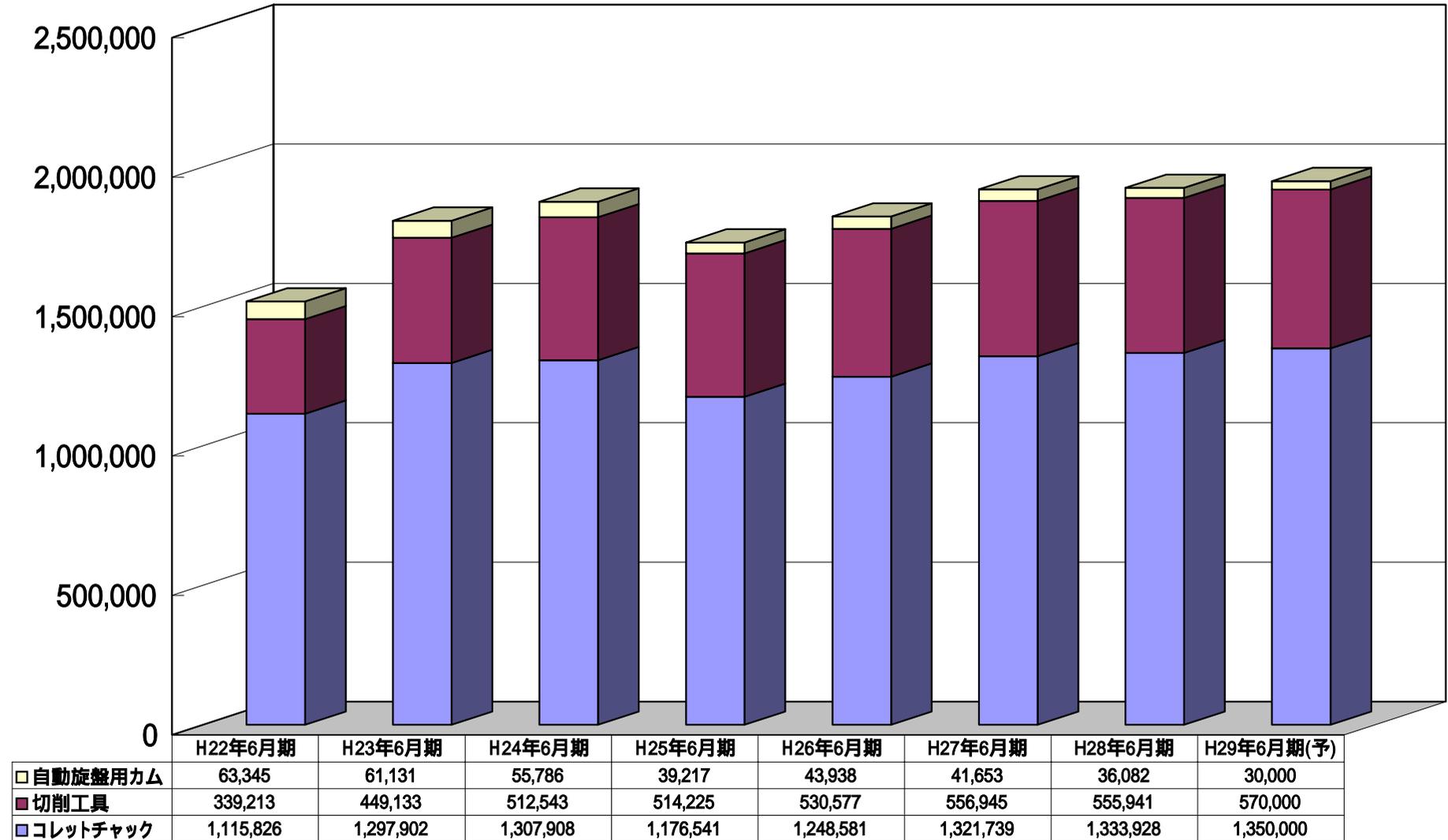


< 特注切削工具の例 > 製作および再研磨



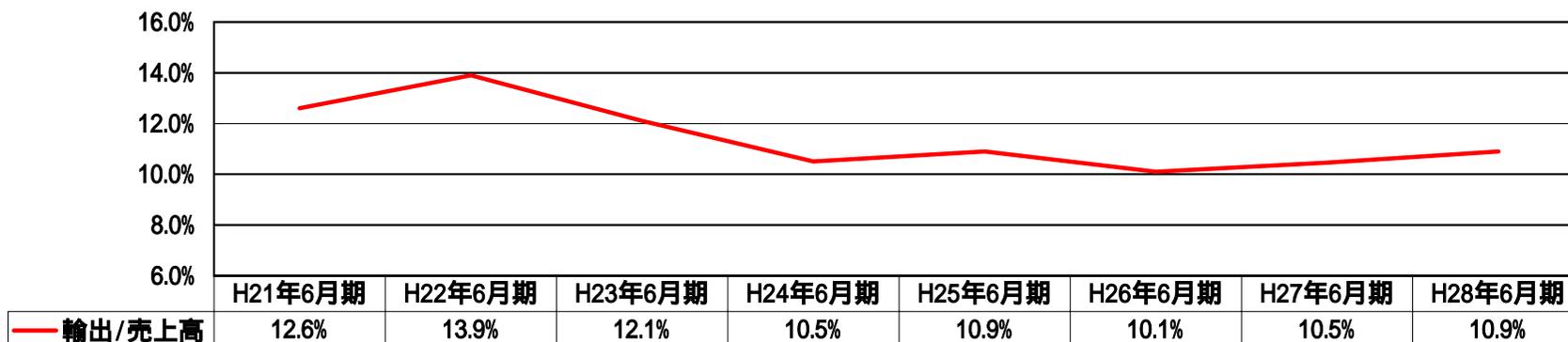
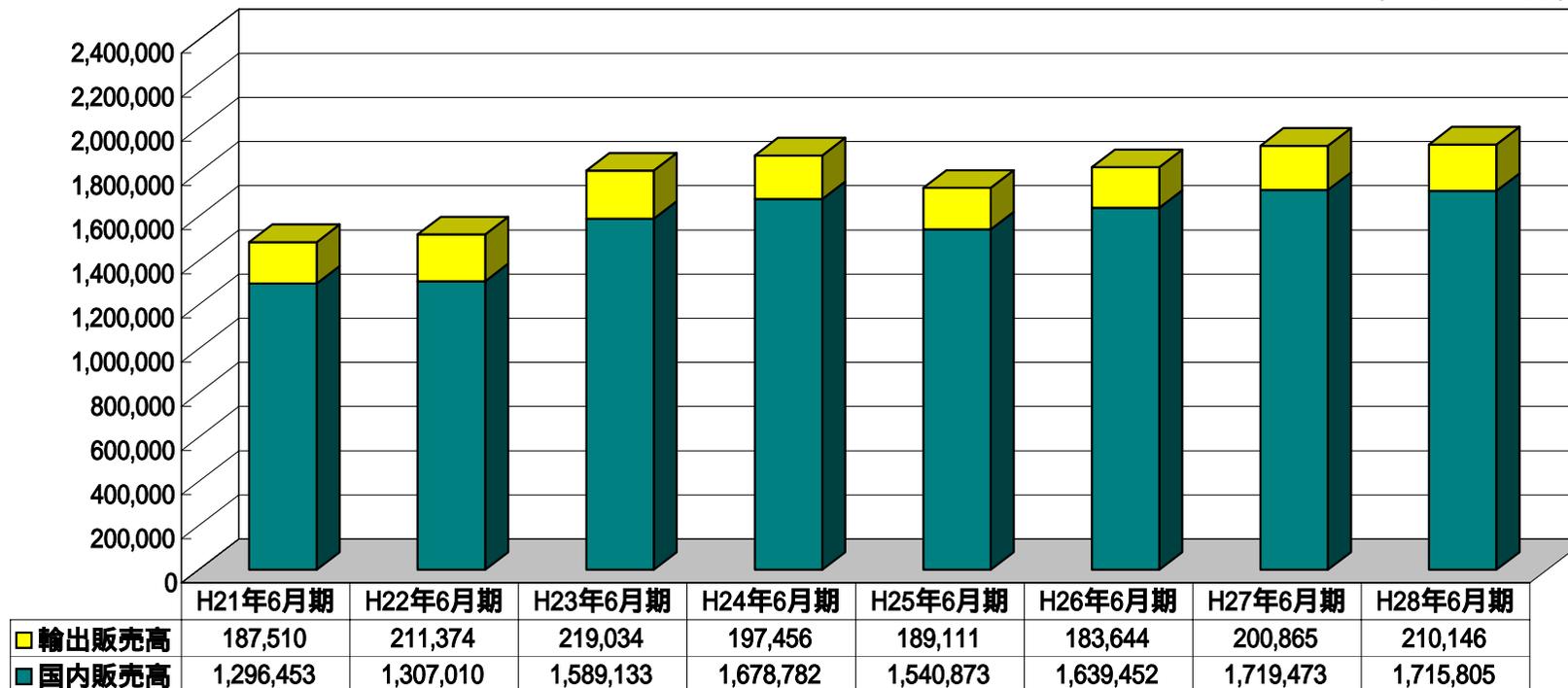
部門別売上状況

(単位：千円)



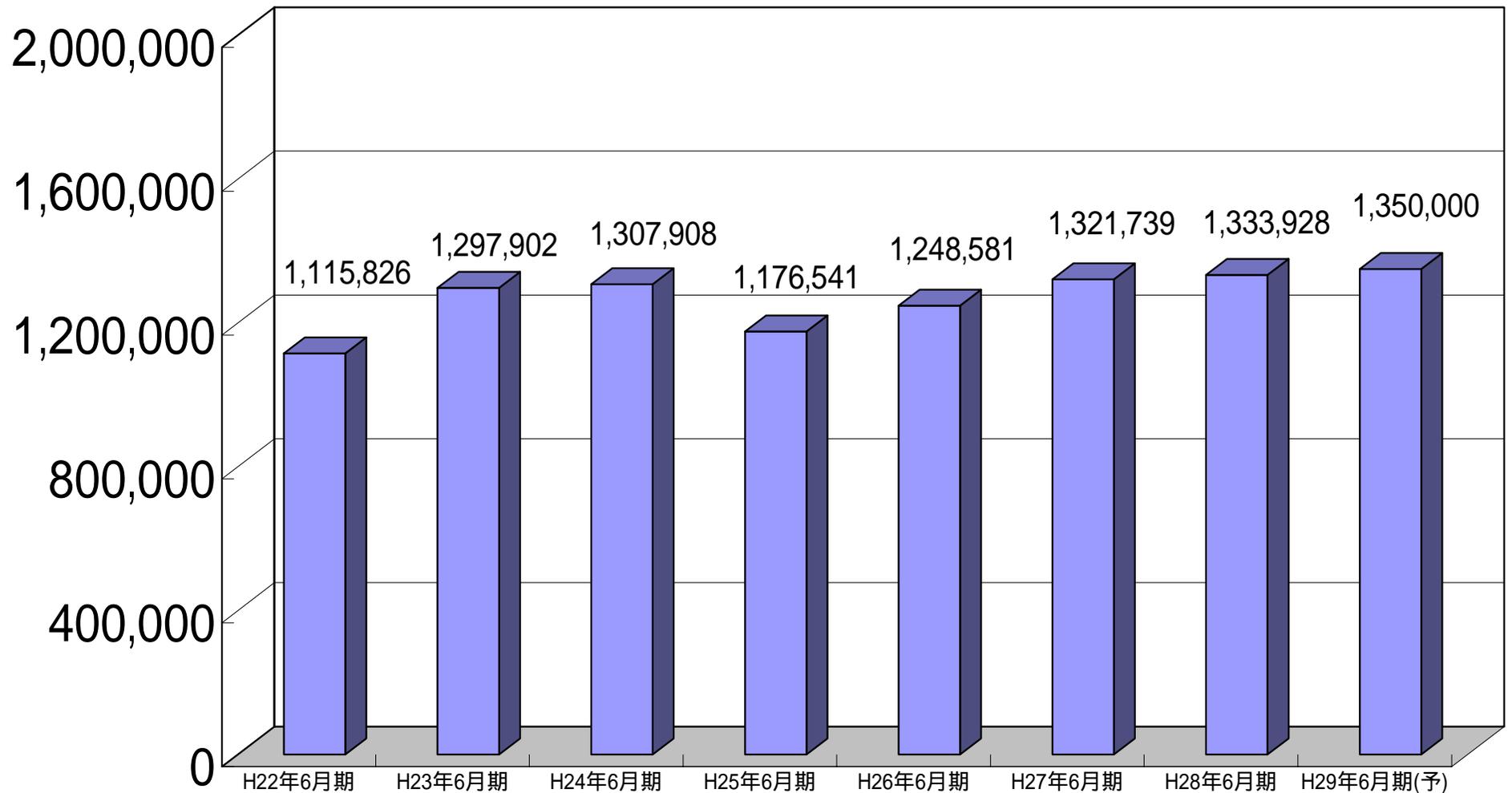
輸出売上状況

(単位：千円)



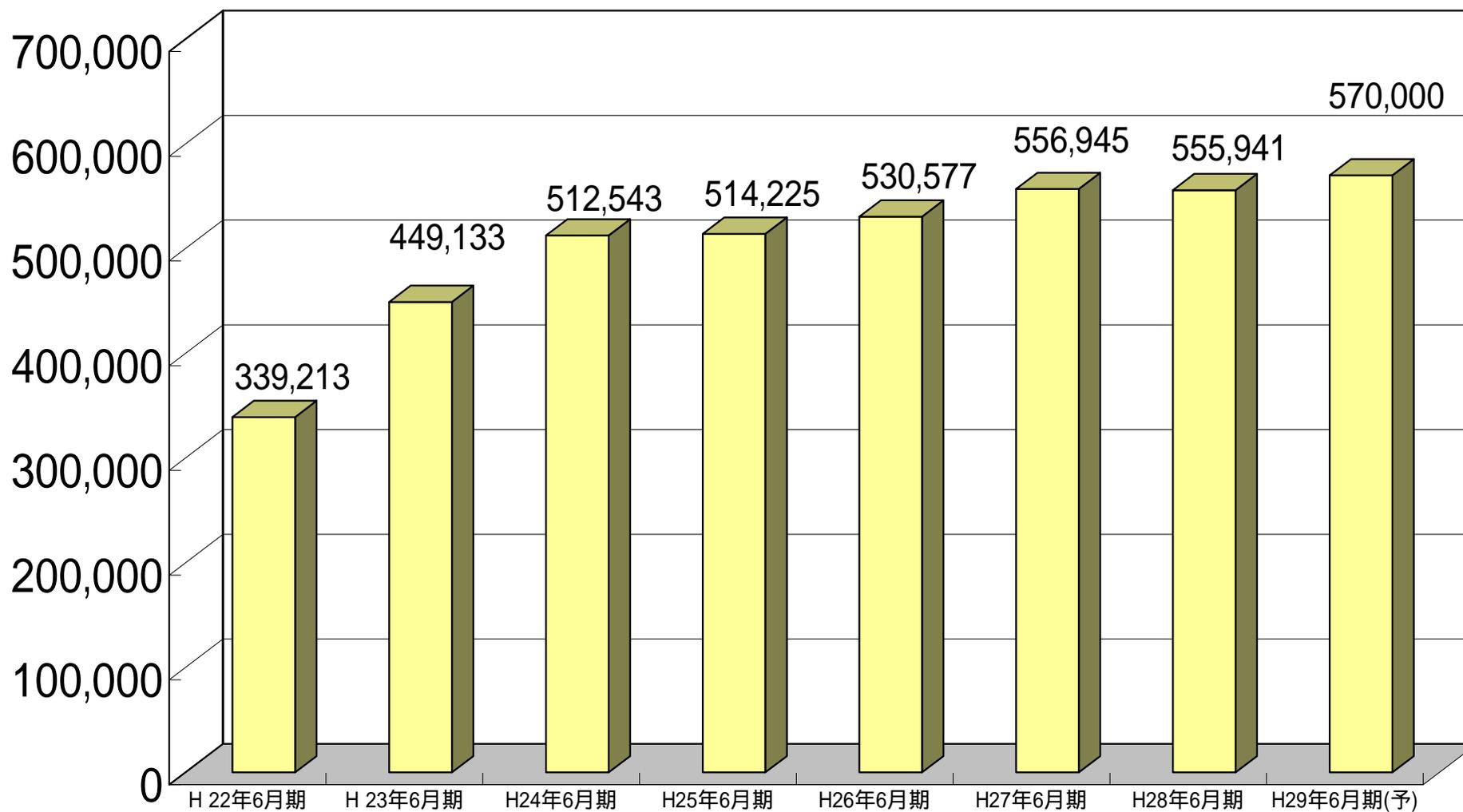
部門別状況 ~ コレットチャック部門

売上高(単位:千円)



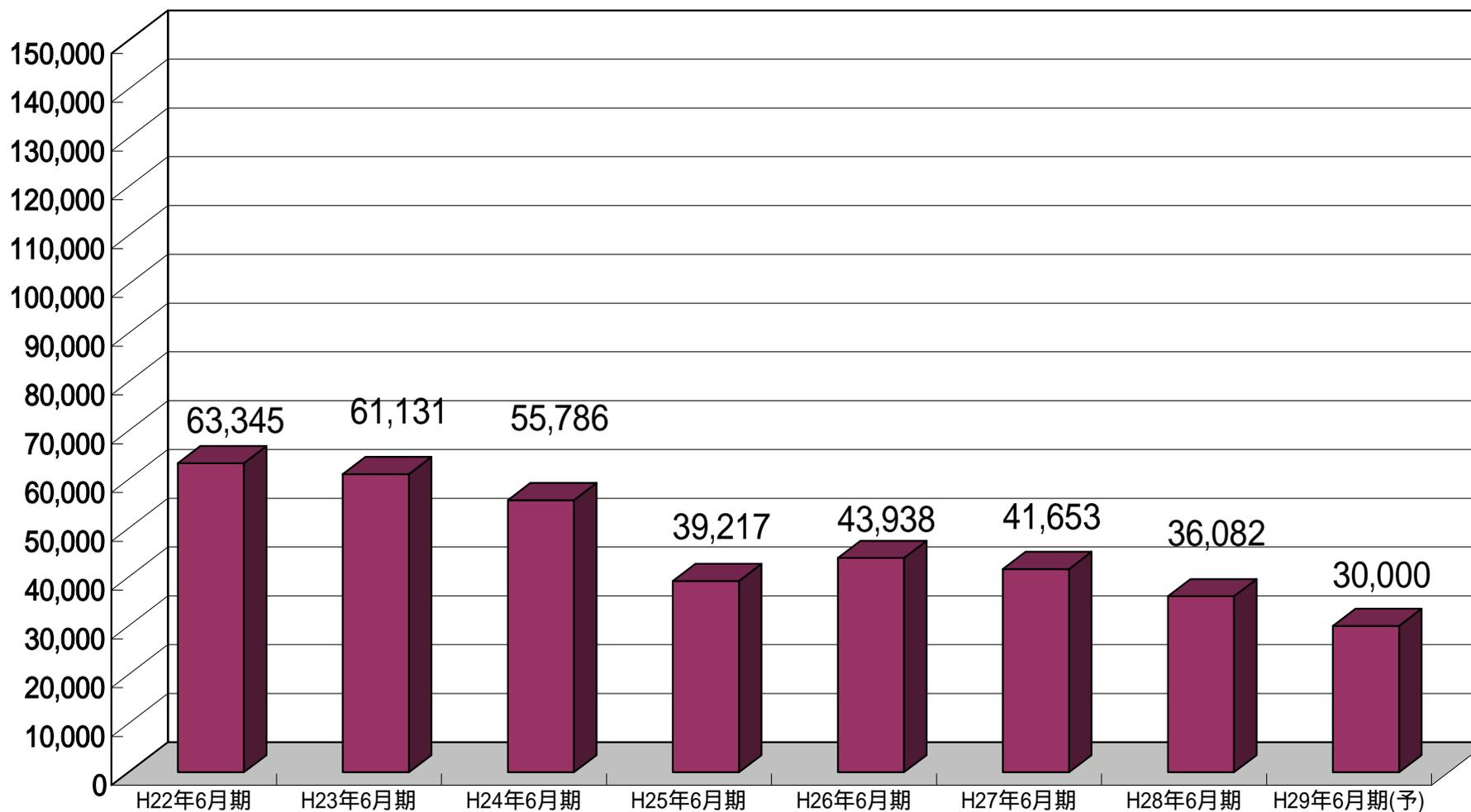
部門別状況 ~ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ~ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却

	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期	H28年6月期
設備投資額 (単位:千円)	532,629	73,405	140,894	107,982	98,321

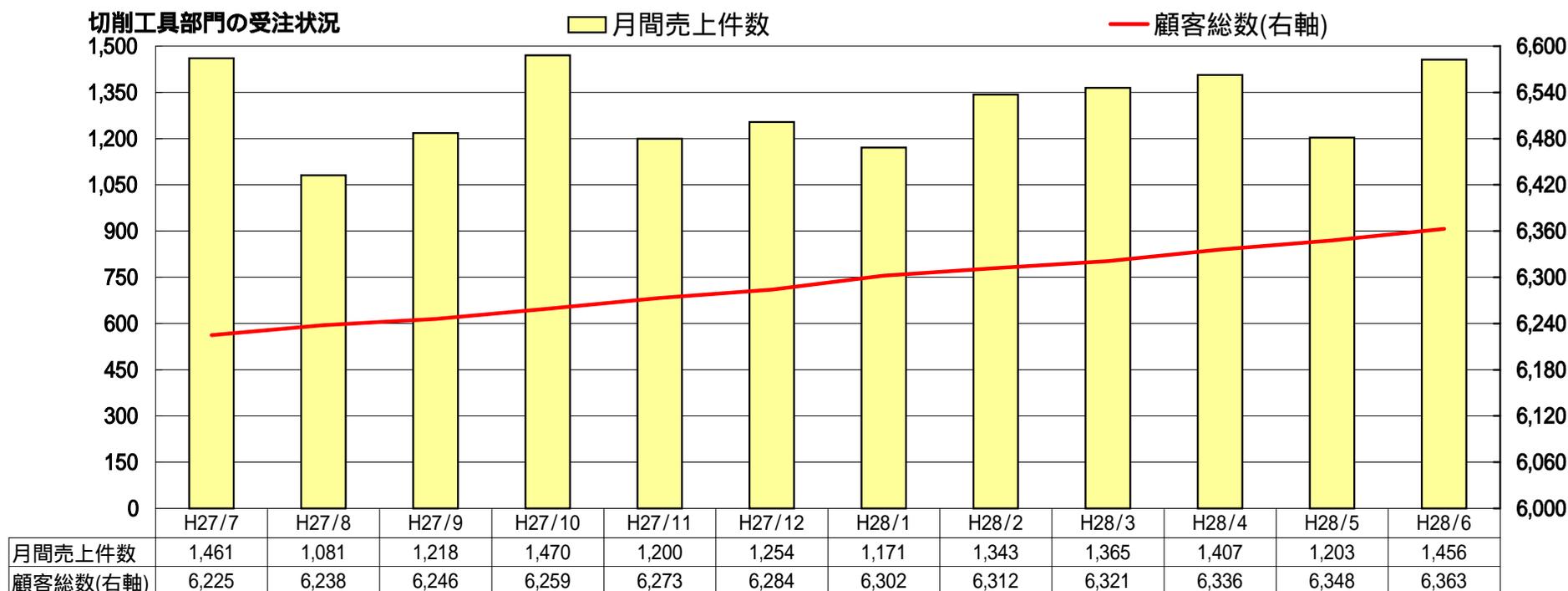
	H24年6月期	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期	H28年6月期
減価償却費 (単位:千円)	291,159	278,748	239,231	212,072	195,071

切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

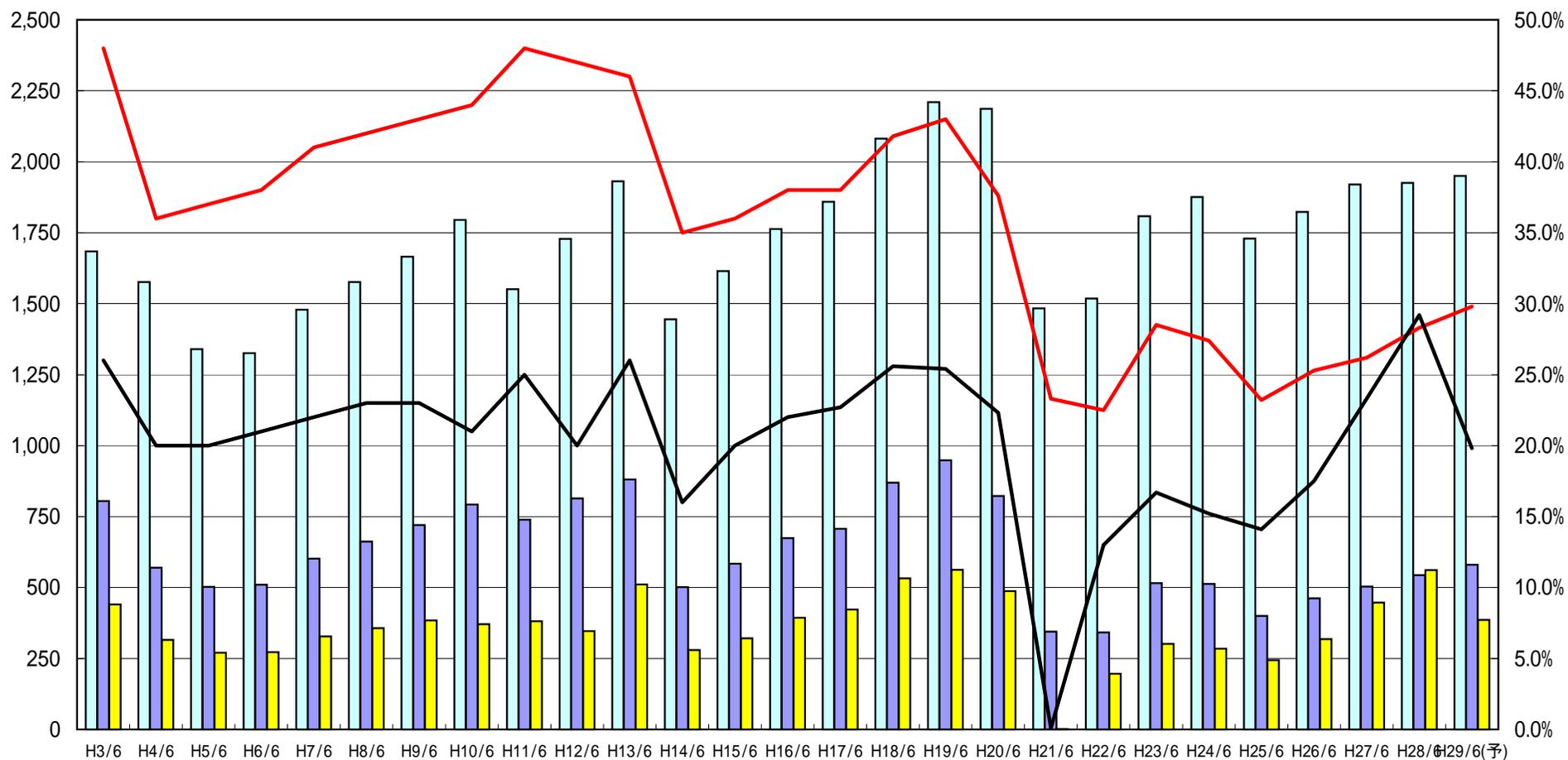
営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める



業績の推移

■ 売上高
 ■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 — 売上高経常利益率
 — 売上高当期純利益率

単位:百万円



実質機械受注と月次売上高

